

おかげさまで 10周年

～記念祝賀会兼第34回兵庫県ろうあ者大会前夜交流会～

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページ

<http://www.normanet.ne.jp>

[/hyoufuku/](http://hyoufuku/)



ホテル ザ・サンプラザ大広間にて

10周年記念誌「地域を生きる 暮らしをつくる (中川原とともに)」が発刊されました。
頒価五〇〇円。



特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」は、2006年4月の開所から10年を迎えました。これを記念して、6月25日(土)淡路ふくろうの郷開所10周年記念祝賀会が行われました。洲本市副市長や市議会議員、連合町内会長、中川原地域のみなさま、聴覚障害者協会のみなさま、ご参加いただきました方々に深く御礼申し上げます。
(4・5面に関連)

2016年7月2日(土)NHKハートネットTVのスタッフが取材に來られました。テーマは「ろう者の戦争」。手話奉仕員養成講座の中で、お話いただきました入居者が出演の予定です。
8月3日午後8時に放送の予定です。

～ 感 謝 状 贈 呈 者 ～

洲本伊月病院 様
市原青空会 様
散髪ボランティア 様
花壇ボランティア 様
柴山 康治 様

淡路ふくろうの郷地域交流会 様
中川原高齢者・障がい者地域交流会 様
絵手紙ボランティア 様
荒浜 悦子 様
うずしおランナー 様



バーベキュー大会 ～ 10周年記念 ～



7月2日(土)、バーベキュー大会を開催しました。今回は家族連れの参加が多く、子供たちがたくさんで会場がにぎわいました。

今回、熊本震災復興支援として熊本から牛肉と馬肉を取り寄せました。お肉はとても柔らかく、あつという間になくなってしまふほど大人気でした。また今回ふくろうの郷10周年記念の大目玉はまぐろの解体ショーです。調理職員が大きなマグロに悪戦苦闘してくれて、普段はなかなか口にできないおろしたてのまぐろのお刺身に、みなさん舌鼓を打たれていました。

6月14日、ホテルアナガに食事にいきました。
4月22日に総料理長の中原様をはじめ、大國様や岸本様にもご協力いた、「10周年記念 フランス料理を楽しむ会」ではとてもおいしい料理を堪能させていただきました。今回はそのお礼をかねてのお食事です。
川村さんは車の中で「暮らした家は香川の山の中だった。ここは海がみえる。き

ホテルアナガへ お礼の食事会

なんか初めて。誘ってくれてありがとう」と嬉しそうにお話ししてくれました。
旅田さんご夫婦も嬉しそうに、生まれ故郷の香川のこと

れい」と言われ、ずっと窓の外を見ておられました。言葉をつづけて、「ホテルで食事

や生活のことなどお話をしてくださいました。鯛の形をしたパンの登場にはびっくり！
創意工夫されたお料理で、素敵な時間を過ごす事ができました。(調理係 秦 奈津子)



ふくろう物語

北川他久美さんの 生活の様子

北川さんは、平成21年5月15日に淡路ふくろうの郷に入所されました。広島生まれで、原爆で皮膚が手指から垂れている様子を話されます。「戦争は怖い。嫌い。困る。」とテレビを観ては思い出されて、強く話されます。母と妹を亡くした後は、他人への警戒心が強くなり閉じこもりの暮らしたようです。ろう学校卒業後、人との関わりも薄く、手話を使う機会も少なかったため、コミュニケーション手段は身振り
が主でした。自分なりの表現方



法をされているので、北川さんとのコミュニケーションは工夫によって広げられていきました。北川さんからそこからの学びは「関わり」を大切にする
ことです。毎日職員のようにテキパキとカーテンの開閉・同じユニットの谷口さんとおしぼり作りのお手伝いをされます。
他の入居者に何かあった時に職員を呼んで知らせてくれます。面倒見の良い方です。役割を持つことで、「いきがい」に繋がっていきます。自分ができることは積極的に行ってくださるので、本当に助かっており、毎日感謝の気持ちを忘れず伝えていきたいと思えます。
くらしの行事への取組には内容や気分が断る時もあります。今後も北川さんの気持ちを引き出す・寄り添う支援を続けていき人生を安心と楽しみ多く、過ごしていただけたらと思います。
職員一同、支えていきたいと思っています。

(生活支援係 石川)

おわかれした一二人の ありし日の写真に囲まれ 故人を偲ぶ会

平成28年6月25日、ふくろの郷開所10周年記念として、家族の会、入居者自治会との共催で「故人を偲ぶ会」が開かれました。当日は、お別れした112人の写真が会場い

っぱいに張り出され、日頃お世話になっている松栄寺の笹津住職にもお越しいただきました。入居者合わせて50名を超え参加者みなさんと、故人となられた方々をお偲び



し、遺してくださったことをあらためてかみしめました。ご家族からは「ふくろの郷を退所後、ここに来る機会が減り寂しく思っていました。が、このような会を開いていただき、嬉しく思います。」とお言葉をいただきました。
記念植樹として来年の2月に「梅の木」を植える予定です。今回は杭の建立だけ行いました。

いあごさつ

家族の会 会長

廣地 タマへ

今年、この施設が開所10周年の節目になりますことから、初めての試みとして、「淡路ふくろの郷」と、私共「家族の会」の協賛で、

最期の時まで

健康看護係 渋谷 裕子
この10年の間に多くの入居者さんとお会いし、そしてお別れもしてきました。お写真を観ていると、たくさんエピソードが思い出されます。

お薬を調整しながら小さな体で電動車いすを操作し施設内を自由自在に、心穏やかに過ごしていただくことを、排尿のカテテルをなんとかして抜くことができないか、年を重ねていくことで、また、病気のために食事のとれなくなった時の栄養摂取方法について、食事形態や胃ろうなどの栄養剤の選択方法など。母親の子どもを思う愛情いっぱいのお手紙を通じて自然な

この施設に入居されており、故人となられた方々を、お偲びし、想い出話などをご家族様と共に語り合っていたらこうと、このような会を計画いたしました。「淡路ふくろの郷」も10周年を迎え、これからは、何かと運営面の厳しさも増してくるのではと思われませんが、今後とものご支援、ご協力を賜りますよう「家族の会」からもお願いいたします。最後までさせていただきます。

最後になりましたが、皆様方のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。



死の迎え方。または緩和ケアを受けながら淡路ふくろの郷で過ごしていただくことについて。家族様とともに悩み学ばせていただきました。普段、身の周りのことはできていた方が、ある日突然の病気で去られた経験から、何気ない毎日の過ごし方を大切にすること。大好きなお酒を楽しんでもらうことや、お刺身など食べたいものを食べられる形態に工夫すること。夫婦や親子の時間。血縁だけではない人と人とのつながり。故郷を離れ不安いっばいで来られた入居者さんに日々のかかわりから笑顔が見られるように。より良い援助につなげていけるように。ときには「アホー」「お前はクビヤ」とお叱りを受けたり、泣いたり、笑ったりしながら、入居者さんや取り囲む方々がこれまで大切にしてきたことを最期のその時まで大切にできるように、これからは皆さんに育てていただきたいと思います。



兵庫県議会議員
濱田 知昭氏

淡路ふくろうの郷は介護の仕事と手話を身につけなければならぬ。そういふ意味でも大変。福祉はみんなの力が必要。助け合いましよう。



(福)京都聴覚言語障害者福祉協会
理事長 高田英一氏

大勢の方が集まり、楽しんでおられる事、うれしく思います。全国の高齢障害者が安心して豊かな人生が送れるよう、命と尊厳を守るよう頑張っております。



(公社)兵庫県聴覚障害者協会
事務局長 嶋本恭規氏

故小松博さんがいたから、ろうあ運動も、施設建設も進めてこられた。10年はまだまだ。山積み課題を前に向いて、がんばりたい。



小松 茂氏

兄の小松博が亡くなつて8年。全国から墓参りに来られる方もいて、兄はすごいと思う。今でも家にいるような気がしている。兵聴協の方に感謝したい。



洲本市副市長 森屋 康弘氏

「一人ひとりを大切に共に生きる」理念のもと、地域の方々と一緒に取り組む事業は国のいいモデルです。住み慣れた地域で生き生きと暮らせる社会をめざして、さらなる発展を祈念します。



中川原町連合町内会会長
樋口 安明氏

中川原にふくろうが開所して10年。全国に誇れる施設だと皆が認めている。施設長や職員の皆さんが熱い思いを持って取り組んできた成果だと思ふ。



兵庫県議会議員
永田 秀一氏

福祉はみんなの力が必要。助け合いがなければ成り立たない。



淡路ふくろうの郷地域交流会
会長 木村 泰生氏

10年間、北岡さんについて頑張ってきた。働いている職員の様子を見てほしい。熱い思いを受けて、また10年頑張ってください。施設長や職員の皆さんが熱い思いを持って取り組んできた成果だと思ふ。



淡路ふくろうの郷地域交流会
北岡 肇氏

中川原に迎えました「ふくろうの郷」の皆さん方の健康と長寿を願って弥栄(いやさか)!!



NPO 法人 神戸ろうあ協会
会長 三谷 信之氏

神戸ろうあ協会よりも土居さんの方が年上。私たちも頑張らなければならぬ。淡路ではなく、神戸にも施設も必要だと思ふ。頑張ってください。



(公社)兵庫県聴覚障害者協会
理事長 本郷普通氏

10年間のあゆみ、皆さんのお力添えがあつてこそ感動しました。どうすればいいのかわからないところからスタートした私たち。組織力のないところから出発した私たちを出発の時から支えていただいた中川原の皆さん。さらなる協力をお願いいたします。



NPO 法人日本障害者協議会
代表 藤井 克徳氏

強い信念を持って、入居者をやさしく、暖かくお世話している。考え方をしっかり持った施設だと思ふ。入居者の姿が物語る。10年を足場にさらなる発展をしてほしい。



淡路ブロック老人福祉事業協会
伊富貴 幸廣氏

施設だけでなく、地域の方々と良好な関係を保つており素晴らしいと思ふ。医療報酬や介護報酬の改定で今後厳しくなるだろう。新たな目標を持って頑張ってください。



勤続10年職員表彰 代表 濱田良介
介護の現場は厳しいですが職員みんな一緒にこれからも頑張っていきたい



近藤昭文氏(洲本市議会議員)の歌唱指導でふくろう音頭のおどり



「ふくろうの郷音頭」は私自身の応援歌にもなりました
荒浜 悦子氏



「デフ・あわじ連」によるフィナーレ

おかげさまで8月10日には満百一歳を迎えます。淡路ふくろうの郷での日々から、わたしの人生、特に戦争の時代と、そして今のくらしの記憶・記録です。ふくろうまなびあい文庫としての発行も大きな喜びです。わたしが額に入れて大事にし、ふくろうの郷に寄付しました。一全国聾啞者大会 祈願式 生國魂神社 昭和14年8月6日午前6時」の大きな写真も付録にいただきました。発行に際して、大阪の肥田才子さま、編集の石沢春彦さま、印刷などで(株)新日本プロセス様など、大勢の方にたいへんお世話になりました。毎日励まして下さっている、ふくろうの郷の職員のみなさま、地域のみなさまに感謝します。この自伝を手にしただけの喜びは、わたくしにとつて無上のもので、死別しました夫の土居正一、ふくろうの郷で共に暮らした弟の中村正一も、また両親や家族・親族みんなの喜びです。改めて感謝し、戦争の世を繰り返さないことを切に願うものです。戦後71年の夏に



土居 文子氏

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

**聞こえない人が感じる
ストレスとは**

毎月1回、聞こえない人のこころのケア相談」を担当している精神保健福祉士の稲淳子です。自身は聴覚障害をもっています。なぜこころの相談を？と思われることでしょうか。

皆さんは、毎日朝起きて仕事に出かけて、周りの人たちとお話をして家に帰ってお風呂に入って寝る・・・の繰り返し生活が当たり前前と思うでしょう。でも、聞こえない人にとつてはその生活にストレスを抱えてしまうことがあります。健聴者との筆談がわからない、必要な情報が伝わらない、周囲とコミュニケーションがとれないなど、人と人との関わりが作れません。関わりは、精神力を与え、気持ちを豊かにしてくれます。その関わりが作れないのは聞こえない本人の問題ではありません。周囲の聴覚障害に対する理解と配慮が不十分なことに一因があります。聞こえない人は、目で情報をつかまえるように

手話で話し、気持ちを整理する

～こころのケア相談をとおして～ **稲 淳子**

んばります。自分のもっている日本語の力で情報を集め、理解しようとしています。そのしんどさは、少しずつこころの疲れの蓄積となっていくます。



▲相談を受ける稲氏。手話で気兼ねなく話せます。

**一人一人に適した
支援を考える**

「聞こえないからもつと努力しないと」「障害だから甘えるな」など周りから言われたAさんは、「健聴者と同じになれない自分が悪い」と悩みました。そんなAさんに、私は手話で語りかけました。「怒っている気持ちをそのまま話して」Aさんは、思いのままに手話で大きく手を動かし、表情が激しくなっていました。Aさんは話しかけたことから自分

の気持ちを振り返り、見つめなおすことができたことで、気持ちを整理することができました。Aさんに限らず、聞こえない人は一人一人生育環境も教育環境も背景も違います。「聞こえない人」とひとくくりにしないで一人一人を見ていただきたいと思えます。直接本人と相談するだけでなく、周囲にいる支援関係者、機関、家族などと一緒に考え、支えていくことが一番大切ではないかと思えます。こころの相談は、生活支援であり、繋がっています。

～難聴者への理解と配慮が広がるように～

洲本市社会福祉協議会「ふれあいサロン代表者会兼研修会」

サロン代表者の方々を対象に「聞こえの教室」というテーマでお話しさせていただきました。サロンでは高齢難聴者との関わりも多いようで、興味深く聞いて下さいました。聞こえにくいことへの理解を深め、相談機関としてのセンターの存在を知ってもらえるよう今後も啓発活動を続けていきます。



▲熱心に話を聞く参加者

**神戸ろうあハウス
デイサービスセンター**

〒652-0897
神戸市兵庫区駅南通5丁目4
西高架下16号
TEL & FAX 078-579-0755



ファンクショナルリーチ

神戸ろうあハウスデイサービスセンターは、灘、兵庫、須磨の3カ所が開いています。それぞれ特性があるのですが、灘デイサービスが一番スピーディにはゆとりがあり、それを利用して、毎月2回の介護予防の他に3ヶ月に1度、体力測定をしています。ADL(日常生活動作)が落ちていないかを知るためです。①握力、②開眼片足立ち、③8メートル歩行、④上体前屈、⑤ファンクショナルリーチの5種類を測定しています。普段どおりでいいのですが、測定だと張り切る利用者

さんもいて、無理をしないようお願いしながら実施しています。概ね「維持」の方が多く、それを踏まえて、手先を使った趣味活動や計算や記憶能力などの脳トレを取り入れ、IADL(手段的日常動作)の訓練に繋いでいます。利用者の皆さんが「長く楽しく、日常生活が送れるように」を目標に進めています。兵庫と須磨は残念なことですが、毎週来ていますが、毎週の転倒予防体操やお出かけ等、それぞれ工夫して進めています。(眞木)

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2



南あわじ市賀集で玉ねぎ収穫の作業様子

5月下旬から始まった玉ねぎ収穫作業。収穫作業の工程は、玉ねぎを抜いてその場に並べる、草刈機で茎を切り1つ1つ拾いコンテナに入れる、そのコンテナを軽トラに積み小屋に運ぶ。その後収穫した玉ねぎを一つ一つ丁寧にハサミで根を切りまたコンテナに入れ出荷する。この一連の作業は全てみんなの人力で行うのです。コンテナも一つ約20キロあり重く軽トラに何度も運び上げなければならず重労働です。

「さあ、玉ねぎ収穫だ」総収穫量17トン

地域の方には聞きながら収穫まで
これまでで振り返ると、近くで農作業されている方に「こんな場合どうしたらよいか教えてください」
「こんなんになってしまいました」と再々多くの地域の方に聞きながら収穫まで

私達だけでなく畑の周りを見ると、農家の方も同じ作業が行われていて頑張られたのだと思います。
地域の方は機械化が進んでいて半日で収穫作業が終わるので、こちらは一つの広い畑を終わらせるのに一週間もかかりました。「機械いいね」とうらやましそうにみんなで見ることがありました。



1つ1つ拾いコンテナに入れる作業工程



根切り・箱詰め等をしている作業工程

3週間毎日続きました。
今年も淡路島全域で茎が枯れる病気がはやり、早く出荷した方がよいとの意見で総収穫量約17トンの内約13トンを業者に出荷しました。その後はスーパー等小売店に卸されることとです。残りはおのころの家の関係者からの注文とバザー等の販売で頑張ることになりました。
(支援員 藤崎)

「今日もしんどいけど頑張ろう」と言うとさっと作業にかかれます。
しかし、利用者の皆さんは毎日腕も肩も腰も痛いのに必死で作業に頑張りました。
「今日もしんどいけど頑張ろう」と言うとさっと作業にかかれます。
今回は自分たちで初めて苗作りから収穫まで行ったことは大きな成果です。作業はしんどい日々が続きましたがみんな休むことなく最後までやり遂げました。
収穫作業は6月中旬まで約3週間毎日続きました。

たどりつけた感じでした。この淡路のやり方を毎日学ぶ日々でした。周りには専業農家で真剣です。私達も遊び半分です。やっていると終われないように頑張ってきました。ある日、利用者の一人から「今日しんどいから作業参加どうしよう」と朝礼時に迷っていた人が畑に来ていました。「どう

兵庫県老人福祉事業協会より 「社会福祉法人の地域貢献」

ヒアリング調査

(中川原地域ふれあいセンター)

6月6日(月)「先駆的な地域貢献事業に取り組み方を対象としたヒアリング調査」として一般社団法人兵庫県老人福祉事業協会調査研究委員会の方々がふれあいセンターに来所されました。
当日はおたがいさま中川原活動が生まれた経緯・背景、また地域住民、各関係機関との連携体制はどうなっているのかなど1時間



新職員の紹介・抱負

送迎員 福本康二

手話で話せる

あつた

5月からお世話になって2カ月が経過しようとしています。私には2人の双子の息子がいますが結婚してそれぞれ神戸方面で住んでおり、今は妻との2人家族です。息子達は暇を見つけては孫を連れて来てくれます。孫の成長を見るのが楽しみになっています。
現在、おのころの家での仕事は淡路市方面への送迎を担当していますが、当初、手話のできない私が本事業所で働くことについて非常に戸惑いがありました。送迎という仕事上、利用者との関わりは殆どありませんが、公用車の乗り降り、信号待ちのときに利用者が一生懸命、手話を使って話そうとしてくれていますが返事ができないことに情けなく思っています。
これからは利用者それぞれへの対応で少しずつコミュニケーションがとれるように楽しく仕事が出来るように思っています。

続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

NO24

北 岡 肇

⑨ 長野から迎えて祀る

厚浜の諏訪明神さん。

諏訪明神さんは、洲本市中川原町厚浜地区にあつて国道28号線のバス停から西の方。

市道厚浜学校線に向うと、目の前に厩さんがあつてすぐ目につきます。

同明神さんの「創祀年月日は未詳であるが、享保12年(1727年)の官祀に「正法寺は諏訪明神を護持する」と記されています。〜中川原村史〜

それ以前をさかのぼってみますと、厚浜の同明神さんは、長野県諏訪湖畔に鎮座しています。「諏訪神社上社」一本宮と前宮一(祭神・建御名方富神(タテミナカタトミノカミ))に観請(遠い土地にある神社の霊をお迎えして安置すること)してお祀りしたのが始まりということ。で全国一万余りの分社があるという事です。その後、享保20年(1735)5月西の鳥居の建立

寛政9年(1977)4月27日

神殿の上棟

明治6年(1873)2月 村社に

列せられる

明治20年(1887)1月13日

神楽社の創設(記念碑建立)し「無病延命・難病即滅」その他、いろいろな願い事に、御功德(神の恵み、神の御利益)あらたかなことから広く世に知られ、島に一箇所の諏訪神社とあつて信仰の深い方がた、そしてお参りする人が多くなり、島内各地に世話人が諏訪明神を信仰する講社をつくり、当時講社員三千人あり、世話人70人と盛大さを誇っていました。

・明治40年(1970) 神楽講社員による300円を基本にして、3千円で本殿・拝殿の改築方針が決まり

・明治41年(1908) 改築に取り掛かる

・明治42年(1909) 10月11日竣工
記念碑も建立し現在に至る

・祭り

1月5日 新年際 4月11日 春季大祭 7月5日 夏祭り 11月11日 秋季大祭
(畑田たかしさん)

諏訪神社の由来より)

行事・予定

7/23 (土) 理事会・評議員会

7/17 (日) 流しそうめん

(主催：ふくろうの郷中川原地域交流委員会)

8/3 (水) 18時からハートネットTV ろう者と戦争

8/6 (土) 淡路島まつり (デフあわじ・ふくろう連出場)

9/22 (木) 理事会・評議委員会 職員採用試験

職員研修&公開講座

バリテーション学習会のご案内

とき：8月23日(火) 14:00から
ところ：ふくろうの郷 地域交流スペース
講師：都村 尚子(臨床教育学 博士)
(関西福祉科学大学 社会福祉学部)

バリテーションセラピーとは、認知症患者の行動や言動を、その人なりに意味のあることと捕えることにより、自尊心を取り戻すことができるコミュニケーションとされています。

受講希望者は、ご連絡ください。

ふくろう

まなびあい文庫3

土居文子さん自信「ろう女性として生きた100年」が愛刊されました。 頒価1000円



土居文子自信

ひとりひとりを大切に 共に生きる

ひょうご聴覚障害者福祉事業協会では
職員を募集しています

～あなたもともに働きませんか～

- ・特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 (生活支援員・看護師)
- ・おのころの家 (生活支援員)

職員採用試験：7月23日(土)

(詳細はお問い合わせください)

0799-25-8550 (橋詰) まで